

### ■プラン名：

**社会に通用する「AI・著作権」スキルと情報活用能力を身につける！DXリーダー育成プラン**

### ■企業名：

**株式会社サーティファイ**

### ■このプランは、事業計画書の以下の項目に対応しています

**1. 情報Ⅱ等の教科・科目の開設等**

**2. デジタル環境の整備と教育内容の充実**

**4. 情報・理数系学科コースの充実**

**5. 文理横断的な新しい普通科の設置**

## ● 概要

情報Ⅰ (1) 情報社会の問題解決、(2) コミュニケーションと情報デザイン、(3) コンピュータとプログラミング、  
(4) 情報通信ネットワークとデータの活用  
情報Ⅱ (1) 情報社会の進展と情報技術、(5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究

- ✓ **AI・著作権の「正しい認識と使い方」を学ぶ講座を提供**
- ✓ **信頼性ある試験で、更なる情報活用能力の定着を図ります**

### <対象>

- ・ 情報Ⅰの授業の一環として、また情報Ⅱにおける知的資産と人工知能への理解を促す活動の一環などにご活用ください。
- ・ 特に、「AIの活用を前提とした実践的な学習」や、「情報モラルに関する学習」、「デジタル人材育成を目指す」活動にお役立てください。

### <期待される効果>



**AI時代を生き抜く  
「正しく使う力」を養います。**

AIの仕組みだけでなく、著作権や  
法規・倫理をセットで学習できます。



**自他コンテンツの権利と  
情報モラルを理解します。**

コンテンツ大国の日本で、AI時代の  
創作に必須な知識と権利を学びます。



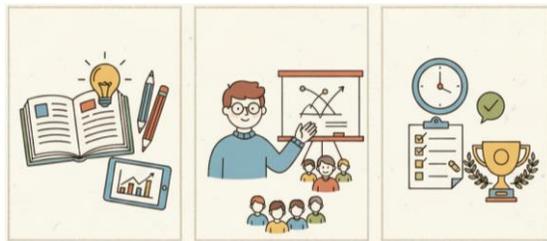
**DXリーダー・デジタル人材  
の自信を育みます。**

学習後に試験を実施することで、  
単元の理解度を可視化し自信を育みます。

## ●ポイント

先生方のご負担は  
**最小限**

必要な「教材」「講師」、単元の最後に受験する「試験」をトータルでサポートします。試験後には分野別得点率等で理解度を詳細に把握でき、その後のご指導に生きる情報を取得できます。



信頼ある外部専門人材の  
**監修・講座**

デジ連の監修する試験問題をはじめ、使用する教材や紹介する講師は、いずれも業界の第一線で活躍される方のご協力をいただいております。

●情報活用能力の測定：教科情報検定

>  **監修**

●AI動画教材と講座：AIリテラシー講座

> 早稲田大学理工学術院基幹理工学部  
教授 尾形 哲也 氏 監修

●情報 講師紹介：

> 河野 達弥 氏 (デジ連登録講師)

など、多数の有識者との連携の機会を創出します。

確かな実力を可視化  
**授業後も続く支援**

AI、著作権、情報に関して、それぞれ単元の学習後に検定試験を活用し、知識とスキルの定着度を客観的なスコアで証明することができます。

試験で合格ラインに到達した生徒様には、「オープンバッジ」を発行することで、SNS上などでもスキルのアピールができ、デジタル人材としての自信を育みます。合格の証明は、学習モチベーションのアップのみならず、生徒様の今後の人生を応援する支援として、授業後も効果を発揮し続けます。



## ● 参考価格

(例) 40名×1クラスの場合

項目	内訳	小計 (税込)
AIリテラシー講座 監修：早稲田大学理工学術院基幹 理工学部 教授 尾形 哲也	生徒用視聴アカウント：1,760円/人 講師用補助テキスト：付録	70,400 円
教科情報に関する理解度測定試験	2,800円/人	112,000 円
著作権に関する理解度測定試験	4,250円/人	170,000 円
著作権に関する、 外部専門人材による【授業支援】	一式 (交通費別途)	200,000 円
情報科教育、AIに関する、 外部専門人材による【授業支援】	一式 (交通費別途)	200,000 円
		合計 752,400 円

### 【留意事項】

- ・参考価格につき、詳しくはお問合せください。条件に合わせ、お見積りいたします。
- ・使用する教材、試験、講師のご紹介等は、ご要望の条件に合わせ、最適化してご提案いたします。
- ・研修のご提供は内容により単価が変動する可能性があります。
- ・「AIリテラシー講座」の閲覧にはPC・タブレット・スマートフォンなど、オンラインに接続したデバイス環境が必要です。
- ・ご紹介、ご提案する講師や講義内容は、ご希望の実施時期や実施内容により、資料に記載のものから変更する可能性があります。ご了承ください。

## AIに関する講座－「AIリテラシー講座」 サービス概要

近年のAI技術の進化にも対応したオンデマンド講座です。

対話型AI「ChatGPT」や生成AIについて触れているほか、画像生成AIや動画生成AIの事例や、チャットボットに関する講座の拡充など、内容をアップデートしており、  
AIリテラシーの習得に最適の講座となっております。



編著 株式会社サーティファイ  
監修 早稲田大学理工学術院基幹理工学部 教授 尾形 哲也 氏  
体裁 動画教材（合計 約8時間。1本の動画は数分～10分程度）



### <目次>

- 第1章 AIの概要
- 第2章 AIの歴史、様々なAIとこれからのAI
- 第3章 AI分野の課題
- 第4章 AIの関連知識
- 第5章 機械学習
- 第6章 深層学習
- 第7章 深層学習の種類
- 第8章 産業への応用、AI社会の実現に向けて
- 第9章 知的財産の保護
- 第10章 基礎数学
- 第11章 模擬問題

## AIに関する講座 – 「AIリテラシー講座」 サンプル動画



以下より、サンプルをご覧ください。ご参考ください。

◆サンプル動画 URL：

<https://youtu.be/qiA61wNx32Q>

◆サンプルテキスト URL：

[https://www.sikaku.gr.jp/ai/pdf/A01\\_sample\\_text.pdf](https://www.sikaku.gr.jp/ai/pdf/A01_sample_text.pdf)

## AIに関する講座 – 外部専門人材の紹介（例）



弊社では外部専門人材等と連携し、各種セミナーを実施しております。

AIに関する外部専門人材の講義や研修等をご希望の団体様に、講師ネットワークを生かした教員研修や講義といった活動のご提案も行っております。ご参考ください。

◆過去セミナーアーカイブ URL：

<https://www.sikaku.gr.jp/ai/seminar/archive/>

## 著作権に関する講座－外部専門人材の紹介（例）



弊社では、著作権に関する教育活動として、有識者のご協力の元、検定試験をはじめとする各種試験、教材をご用意しております。特に、**AIと著作権、情報モラル**といった学習項目におきましては、弊社の有識者ネットワークを活用した講義展開をご提案いたします。



著作権検定委員会 委員長

# 久保田 裕 氏

一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 専務理事

山口大学特命教授

公益社団法人著作権情報センター 理事

特定非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会 理事

特定非営利活動法人 ブロードバンドスクール協会 情報モラル担当理事

▼その他有識者情報はこちら（サーティファイ著作権検定委員会）：

<https://www.sikaku.gr.jp/bc/introduction/committee/>

## 著作権に関する講座 – 講座例



生成AIの活用が進む中、出力する成果物や取り込むデータ等に著作権がどのように関わっているか、

**「正しくAIを使う」**理解を深めるうえでは、必須の知識理解と言えます。

著作権講座を通じて、著作権知識はもちろん、

AI時代のコンテンツ活用に関する**“ルール”**や倫理観も育みます。

### カリキュラム例

・1コマ50分想定で合計10コマ程度。ご要望や時数に応じて、単発1~2コマの講義や数コマ程度の内容に組み替えも可能です。

単元	学習項目
1	第I章 著作権の概要
2	第II章 著作物①、生成AIと著作物
3	第III章 著作者、生成AIは著作者になりうるか
4	第IV章 著作者の権利①
	第IV章 著作者の権利②
5	第V章 保護期間
6	第VI章 著作権の譲渡と利用許諾

**【啓蒙】**  
権利や社会通念の理解

単元	学習項目
7	第VII章 著作権の制限①
	第VIII章 著作隣接権
8	第IX章 著作権の侵害、生成AIの著作権リスク
9	第X章 知的財産権制度
10	第XI章 情報社会と情報モラル
11	全体の復習、過去問題対策
12	過去問題対策・業界事例学習
13	著作権に関する理解度測定試験 受験

**【実践】**  
事例や実社会の  
権利関係を理解

# 教科情報検定

「情報Ⅰ」に関する基礎的な知識を有し、  
その知識を活用し思考・判断・表現する力を認定する試験です。  
**デジタル人材共創連盟の監修をいただいております。**

主催・認定	サーティファイ 情報処理能力認定委員会
監修	 一般社団法人デジタル人材共創連盟
試験時間	60分
合格基準	得点率が60%以上とする。
出題形式	40設問程度 多肢選択式 (大学入試センター 試作問題「情報Ⅰ」同様の形式とする)

## 情報活用能力の定着－活用例

「検定試験 教科情報検定®」受験により、「情報Ⅰ」学習状況をはじめとして  
情報活用能力の定着度を**全国共通の指標で把握**することができます。  
情報Ⅱ履修のために、**学習状況や理解度の把握（見える化）**にご活用ください。

## できること

- 「情報Ⅱ」履修のための「情報Ⅰ」学習状況の把握
- アセスメント・検定結果による**学習領域ごとの理解度の把握**
- **全国共通の指標で測定**することによる、教員/学習者の到達地点の把握
- 「情報Ⅱ」履修に向けた学習計画のためのデータ取得
- 教科情報検定 合格による資格取得
- 資格取得による学習者の**学習意欲の刺激・向上**
- **デジ連登録講師によるプログラミング・情報教育に関する教員向け研修、生徒向けの授業も対応可能**

## デジ連 登録講師のご紹介

## 講師

河野 達弥（こうの たつや）氏

・株式会社irodori 代表取締役

[https://dle.or.jp/blog/instructor\\_kouno/](https://dle.or.jp/blog/instructor_kouno/)



大阪教育大学卒業後、大手印刷会社にてシステムエンジニアとして9年勤務。大手生命保険会社などの一括アウトソーシング業務を担当し、プロジェクトリーダーを経験。社内改革推進や新入社員研修担当も経験。現在は、こども向けのプログラミング教室と造形絵画教室を運営する傍ら、公教育支援にも従事。

## 活動範囲

- ・ 関西 ※交通費全額支給に限る
- ・ 関西以外のエリアにおいては、オンライン等による研修実施体系も企画可能。  
(研修内容や実施方法に関しては相談のうえ、柔軟に調整させていただきます。)

## 情報活用能力の定着—教科情報検定 試験範囲



試験範囲は「情報Ⅰ」の学習範囲に則り、以下の通り定めております。

高等学校 学習指導要領（平成30年告示）情報に準拠し、以下の領域から出題する。

- (1) 情報社会の問題解決
- (2) コミュニケーションと情報デザイン
- (3) コンピュータとプログラミング
- (4) 情報通信ネットワークとデータの活用

※プログラミング言語については、共通テスト手順記述標準言語の仕様に準ずる。

参考：大学入学共通テストの「問題作成のねらい、範囲・内容」における表記

○問題作成のねらい、範囲・内容

「第1（「問題作成の基本的な考え方」の項）」に示す問題作成の基本的な考え方を踏まえつつ、高等学校学習指導要領に準拠するとともに、高等学校学習指導要領解説及び高等学校で使用されている教科書を基礎とし、特定の事項や分野に偏りが生じないように留意する。

なお、高等学校における通常の授業を通じて身に付けた知識の理解や思考力等を新たな場面でも発揮できるかを問うため、教科書等で扱われていない資料等も扱う場合がある。

※「独立行政法人大学入試センター：令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法及び問題作成方針」より

「第2 出題教科・科目の出題方法、問題作成のねらい、範囲・内容等」から抜粋

情報活用能力の定着—教科情報検定 試験結果



試験結果は以下の「[結果帳票 \(PDFデータ\)](#)」にてお知らせします。  
 また、団体担当者の方には、[受験者の結果一覧データ](#)もご提供します。

1030001  
東京都中央区日本橋小伝馬町

試験 三郎 様  
230328-00010-1-JK06A2023

教科情報検定について  
サーティファイ情報処理能力認定委員会が主催する当検定試験は、高等学校において「情報1」が必修科目となり、また2020年度から大学入学共通テストへ教科「情報」が追加される背景を受け2023年度に新規検定として創設されました。初等教育から高等教育まで、一貫して重要視されている「情報」分野において今後より一層重要となる情報に関する基礎能力を測定、判定することで、学生、教育機関、企業それぞれの目的に応じた利活用ができる本検定試験として発展が期待されています。

発行日： 2023年4月12日  
情報処理能力認定委員会

■ 受験情報 / 教科情報検定	■ 認定基準 / 教科情報検定
受験番号 試験 三郎	「情報」に関する基礎的な知識を有し、その知識を活用し思考・判断・表現する力を認定します。
受験番号 1	
受験会場 子スト用(板井小敷専用)	
受験年月日 2023年1月1日	
受験会場 60010	
受験科目 2023年度3月29日	

■ 試験結果 / 出題テーマ別		正答率	正答/総数
テーマ			
情報社会の問題解決		10/10	10/10
コミュニケーションと情報デザイン		10/10	10/10
コンピュータプログラミング		11/11	11/11
情報通信ネットワークとデータの活用		9/9	9/9

■ 正答状況													
問	状況	問	状況	問	状況	問	状況	問	状況	問	状況	問	状況
1	○	6	○	11	○	16	○	21	○	26	○	31	○
2	○	7	○	12	○	17	○	22	○	27	○	32	○
3	○	8	○	13	○	18	○	23	○	28	○	33	○
4	○	9	○	14	○	19	○	24	○	29	○	34	○
5	○	10	○	15	○	20	○	25	○	30	○	35	○

得点率 100% 含否結果 -

■ 出題範囲 / 教科情報検定  
高等学校 学習指導要領(平成30年告示)情報に準拠し、以下の領域から出題する。  
 (1)情報社会の問題解決  
 (2)情報通信ネットワークとデータの活用  
 (3)コンピュータプログラミング  
 (4)コミュニケーションと情報  
 ※プログラミング言語については、共通テスト解説標準言語の仕様と準じる。

詳細はサーティファイのHPでご確認ください。  
<https://sikaku.jp/js/jss/exam/range/>

学習領域別  
得点率

問別正答状況



※検定試験目的のご受験においては、  
合格者を対象に「オープンバッジ」も  
発行いたします。

オープンバッジは、ICT活用教育分野における  
国際的な技術標準規格に準拠したデジタル証明です。

▼オープンバッジとは：

<https://www.sikaku.gr.jp/js/jss/introduction/highlicense/>

ご興味がありましたら、以下からお問合せください。



<お問い合わせ先>

株式会社サーティファイ 事業推進部

担当：大橋 崇也

TEL：0120-031-749 (平日 9:00~17:30)

Mail (代表)： [info@certify.jp](mailto:info@certify.jp)

Mail (個人)： [ohashi.takaya@certify.jp](mailto:ohashi.takaya@certify.jp)

Webサイト： <https://www.sikaku.gr.jp/>



▲プランに関するお問い合わせフォーム：

[https://content.sikaku.gr.jp/dxhs\\_plan](https://content.sikaku.gr.jp/dxhs_plan)